

## IAUD Newsletter vol.9 第 11 号(2017 年 3 月号)

1. 「IAUD アワード 2016」受賞紹介②..... 1
2. IAUD 3 月の予定..... 10



### 持続可能な共生社会の実現に向けた革新的な UD 活動 「IAUD アワード 2016」受賞紹介②: 金賞受賞 3 件の取り組み

「IAUD アワード 2016」受賞紹介の 2 回目は、金賞を受賞した 3 件の取り組みです。

IAUD アワード 2016 審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、共創デザイン部門金賞の「孫育て専用ほ乳瓶『ほほほ乳瓶』」(BABA ラボ(シゴトラボ合同会社))に対し、「保育をする祖父母などに適した使いやすい上品なデザインの哺乳瓶であることに加え、この構想の背景にある新しい多世代職場の実現という独自の視点を高く評価した」と、講評しました。

また、同じく共創デザイン部門金賞の「多様な人々の活躍を後押しする地域・会社・社員で実現する創造の連環」(富士通株式会社)については、「企業文化に UD を統合する構想全体に含まれる一連の意識向上活動で推進される多様性とイノベーションに焦点を合わせていることを歓迎する。多様性と包摂の好例だ」と、高く評価しました。

さらに、スポーツデザイン部門金賞の「ユニヴァーサルデザインのハイチャレンジロープコース」(オーストラリア連邦ヴィクトリア州保健福祉省(HHS)連携 YMCA ヴィクトリア)については、「極限環境でアクセシビリティを取り入れ、全員が同じチャレンジに立ち向かい、全員に喜びと肯定的な生活の質を提供している素晴らしい例。特に、増収を含む 2 年間の劇的な影響に感銘を受けた」と、高く評価しました。

今号の Newsletter では、「孫育て専用ほ乳瓶『ほほほ乳瓶』」の取り組みをシゴトラボ合同会社の藤田史織氏に、「多様な人々の活躍を後押しする地域・会社・社員で実現する創造の連環」の取り組みを富士通(株)グローバルマーケティング本部総合デザインセンターの深井みどり氏に、「ユニヴァーサルデザインのハイチャレンジロープコース」をオーストラリア連邦ヴィクトリア州保健福祉省の David Strickland 氏に紹介していただきます。

※「IAUD アワード 2016」受賞紹介①大賞 2 点の紹介は、IAUD Newsletter vol.9 第 10 号(2017 年 2 月号)をご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/8478/>

※IAUD アワード 2016 受賞結果はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8109/>

※IAUD アワード 2016 審査講評はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8077/>



IAUD アワード 2016 表彰式の様子  
(2016 年 12 月 名古屋国際会議場)



## シニアの育児参加を促す“孫育て専用”ほ乳瓶

共創デザイン部門金賞:孫育て専用ほ乳瓶「ほ ほ ほ ほ乳瓶」  
BABA ラボ(シゴトラボ合同会社)

### 背景は孫育て人口の急増

共働き家庭の増加により、近居を選ぶパパママが急増、祖父母が孫育てに関わる機会が増えています。

そんなシニアが安全に使える子育てグッズのニーズが高まっていくことが考えられます。



ほ ほ ほ ほ乳瓶

### 孫育て経験者の「困った」を形に

BABA ラボのスタッフは、20代のママから80代の高齢者まで、50名～60名ほどの幅広い世代が集まっています。

「困った」実体験に基づいた“欲しい”商品を開発しました。

### 「シニアの使いやすさ」＝「メモリの見やすさ」



見やすい



見にくい



台に置いてつかう



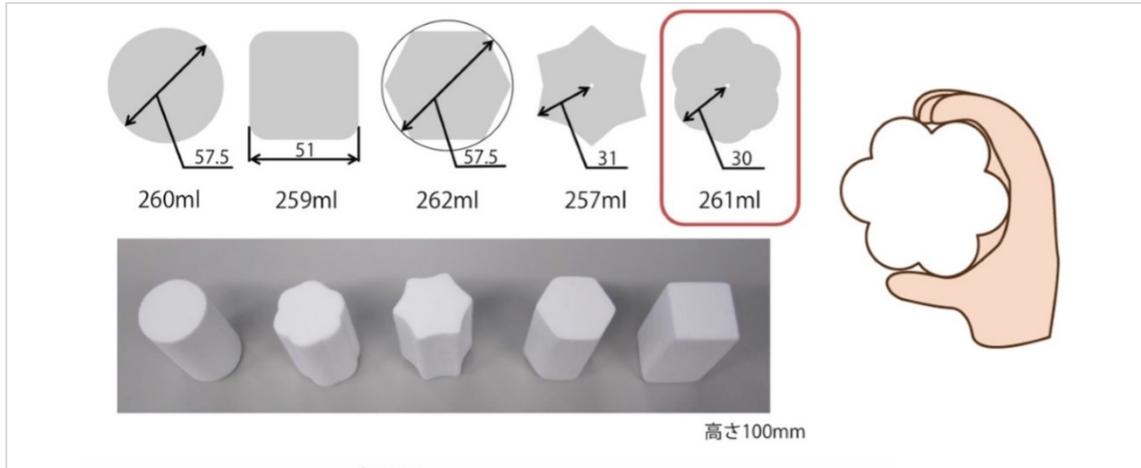
手にもってつかう

火傷などの危険性

メモリが大きく、感覚的に容量がわかるデザインであることから、老眼による調乳ミスや火傷を防止することができます。

### シニアが抵抗を感じない形状

花びら型のデザインは、指にフィットして扱いやすく、調乳時の落下事故を防ぎます



扱いやすい花びら型のデザインを採用

### 大学との共同開発



芝浦工業大学との共同での商品開発の様子

商品開発では、シニアの身体的負担にならない設計や、視認性の高いメモリについて、芝浦工業大学デザイン工学部橋田研究室と4年の歳月をかけて共同開発しました。

赤ちゃんの飲み心地が優先されるほ乳瓶ですが、一方で使用者のやけどや落下による破損事故なども多く、孫育てにおいて大きな課題となっています。

今回のほ乳瓶は、持ちやすさや視認性など、使用者の安全も考慮した新しい視点を持つ商品です。

### 純国産製品

BABAラボの製品アイデアと、芝浦工業大学橋田研究室によるプロダクトデザインを、同じさいたま市内のプラスチック成型会社や検査・組立会社との連携により商品化しました。

特徴である複雑な形状を地元の中企業が形にし



地元企業の協力で複雑な形状を実現

た純国産ほ乳瓶です。

## 100歳までいきいきと

BABA ラボでは、30代のママから87歳のおばあちゃんまで、50名程度の女性がものづくりの企画や製造に関わっており、高齢者の雇用を創出するほか、子連れ出勤の母親の参画を促すことで、多世代交流の場を提供しています。

BABA ラボの詳細はHPをご覧ください。

<http://baba-lab.net>



BABA ラボのスタッフ



## 地域社会、お客様に ICT による豊かな社会の実現へ

共創デザイン部門金賞：

多様な人々の活躍を後押しする地域・会社・社員で実現する創造の連環  
富士通株式会社

### より多くの人々が参加できる ICT 社会の実現を目指して

富士通グループでは、より多くの人々が参加できる ICT 社会の実現を目指し、ユニヴァーサルデザインの考え方を社内改革や、製品・サービスの開発に活かしています。

ダイバーシティを意識して、多様な人材を雇用し、障害のある社員もいかに能力発揮ができ、自律して職場の戦力として活躍することができるよう、ワークスタイルガイドライン作りや、相互理解のための教育、イベントの実施に取り組んできました。

この活動が、障害を理解し、課題解決に役立つ ICT サービス、製品の開発につながりました。

さらに、こうした一連の活動を地域社会に還元すべく、障害を理解するための地域交流イベントを開催しています。

以下に具体的な取り組みの事例を挙げます。

### 当事者知見の集約と当事者理解～社員視点

企業には、障害者雇用促進法により法定雇用率のもと、一定の人数の障害者を採用することが義務付けられています。

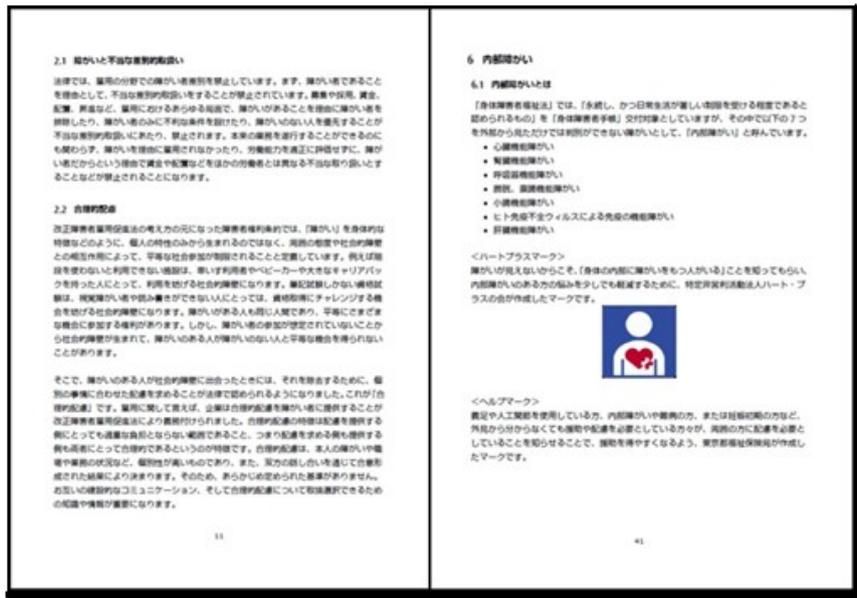
また、障害者差別解消法では、障害があることを理由にした差別を禁じること、改正障害者雇用促進法では、障壁を取り除くために、個別の特性にあった配慮、すなわち「合理的配慮」を求めることが認められるようになりました。

しかし、障害者を採用しても、受け入れた職場において、或いは社内で、当事者が障壁を感じることなく、適切な本人の望む支援を受けて仕事に臨み、自身の能力を最大限に発揮することができなければ、成果につなぐことができなくなってしまいます。

障害のある社員のヒアリングを行い、実際の職場においての体験をもとに配慮して欲しい事柄や障害別の特性について得られた知見を集約し、職場での対応方法の理解促進や、相互

コミュニケーションの円滑化を図るため「ワークスタイルガイドライン」を作成し、社内で公開しています。

ガイドラインでは、障害者雇用に関わる法令の解説と、合理的配慮を実施するために職場での対話・改善に役立つための事例を実践的、かつ具体的に記載しています。



### 障害者雇用に関わる「ワークスタイルガイドライン」

### 多様性の理解と教育の推進～社員視点

「ワークスタイルガイドライン」の整備に加え、お互いの理解を深める活動を行っています。多様な社員それぞれの立場や気持ちを理解し、共に働いていく上でのコミュニケーションを深めるため、社内では障害者や外国人などテーマを決めた「ダイバーシティ・フォーラム」を定期的に開催しています。

また、新たなテーマとして、LGBTの当事者を招いて、彼らが置かれている現状や、世界での対応状況、どのように接していくことが望ましいのかといったことを話し合い、共感力を高めていくワークショップも開催しています。

どちらも、同じテーマに対してディスカッションを深めていくことで、思い込みや互いの心のバリアが解けていっています。



障害のある社員とのダイバーシティ・フォーラム

LGBT 当事者と考える共感ワークショップ

## 当事者の声を生かした研究、製品、サービスへの展開～会社視点

現場の声を大切にし、障害者の自立支援と、サポートする方の負担軽減などを目的としたものづくりに力を入れています。

とりわけ、当事者が周囲のサポートを受けて自身の能力を発揮できるようになったことと、当事者の困りごとを具体的に周囲が理解できるようになったことで、当人にしかわからない困難さや障壁を解消するための製品やサービスの開発が進みました。

具体的成果として、聴覚障害者と聴者との会話を支援するシステム「LiveTalk」や、音を振動で髪に伝えるシステム「Ontenna」、視覚障害者や色覚差異者に色の識別を支援する携帯電話アプリ「ColorAttendant」等の開発がなされました。



音声認識を使用した会議支援システム「LiveTalk」



音を振動で髪に伝えるシステム「Ontenna」



携帯電話のカメラで撮影し、被写体の色を識別して伝達するアプリ「ColorAttendant」

社内で使われる業務用システムや、イントラサイトにおいても、障害のある当事者の声を取り入れ、自立して業務をすることが可能となるように、アクセシビリティ、ユーザビリティ面からの改善が進み、これらの知見は製品やソフトウェア開発にも活かされています。

## 地域との交流～地域視点

富士通グループは、こうした一連の活動で得た知見を基盤に、社会の一員として地域貢献活動を行っています。

地域ぐるみで、多様性を受容できる社会を作るため、地域イベントにおいて「車いすバスケット」等の障害者スポーツ体験活動を実施したり、車いす等を使った障害者体験を定期的に行っています。

ここで培われた知見もまた、次の製品、サービスの開発に活かされています。



「富士通春まつり」で行われた「車いすバスケット」体験会



同じく「春まつり」で行った車いす体験

## 地域・会社・社員で実現する創造の連環

以上のように富士通グループでは、社員、会社、地域の3つの視点から、多様な特性を持つ方々への理解を深め、当事者の課題を解決するための製品やサービスの研究や開発を行い、地域社会と交流し、社会に貢献していくという活動を行っています。

このサイクルを回し続けることによって、富士通グループでは多様性を尊重し、当事者と共に培った知見をより多くの人達の社会参加を可能にするためのものづくりに役立て、地域との交流で社内の多様性理解を深めていくという創造の連環をしています。



地域・会社・社員で実現する創造の連環

これからも富士通グループでは、障害のあるなしや、国籍の違い、性別の違いなどの様々な特性のある人々が、お互いに理解しあい、助け合い、それぞれの交流の中で学んだことを仕事の中で活かし続け、地域社会、お客様にICTによる豊かな社会の実現をもたらすことができるよう、努力を続けていきたいと思えます。



誰でも一緒に同じアドベンチャー体験が可能に

スポーツデザイン部門金賞:

ユニヴァーサルデザインのハイチャレンジロープコース

オーストラリア連邦ヴィクトリア州保健福祉省(HHS)連携 YMCA ヴィクトリア

### 世界初のUD アウトドア施設

オーストラリア連邦ヴィクトリア州(オーストリア南東部に位置。州都はメルボルン)は、そのアウトドアなライフスタイルや美しいキャンプ地が世界的に有名ですが、同じく見所として誇れるのが、キャンピング & アウトドア分野において世界で初めてユニヴァーサルデザインを取り入れた「キャンプ・マンユン」の「ハイチャレンジロープコース」



上空から見た「キャンプ・マンユン」

です。

従来、ハイロープアドベンチャーコースは健康者の利用を前提に設計されていました。

しかし、「キャンプ・マンユン」の「ハイチャレンジロープコース」はデザインにユニヴァーサルデザインの原則を適用し、様々な年齢や能力の人々が等しくアクティビティに参加できるユニークで爽快なアウトドアアドベンチャーアクティビティとなっています。

ユニヴァーサルデザインの基本理念を共通のコミットメントとして、キリスト教青年会(YMCA)とオーストラリア連邦ヴィクトリア州政府との連携のもとに実施されたこのロープコースプロジェクトは、アウトドアアクティビティへ参加する機会をすべての人々に等しく提供しています。



ヴィクトリア州南部にある「キャンプ・マンユン」

## あらゆる能力のキャンパーたちから意見収集

ユニヴァーサルデザインの原則を採用する以前は、「キャンプ・マンユン」のようなキャンプのアドベンチャーアクティビティをすべての人々が楽しむことはできませんでした。

障害を持つ人々が、不十分なデザインや専門器具の不足、柔軟性に欠ける指導方法のためにアクティビティに参加できないということが頻繁に起こっていたのです。

そこで、本プロジェクトでは、すべての人々が自立してすべてのアクティビティに差別されることなく参加できるようにするには、このロープコースをどのようにデザインおよび建造すべきかについて、あらゆる能力やバックグラウンドを持つキャンパーたちから意見を集めました。

「ハイチャレンジロープコース」は、ユニヴァーサルデザイン原則の中でも特に、「原則 1: 公平な利用」「原則 2: 利用における柔軟性」と合致しています。

そしてキャンプに訪れる多様な人々が、等しく参加し、社会的包摂の健康上の利益を享受し、屋外で活動的に過ごす選択肢を持つことを可能にしています。



キャンパーとの意見収集の様子

## アドベンチャー体験に UD 原則の考えを実現

現在、「キャンプ・マンユン」の「アウトドアアドベンチャーアクティビティプログラム」では、すべての参加者が年齢や能力、経験に関係なく、同じアドベンチャー体験を障壁や差別なく楽しむことができる包括的な環境を提供しています。

オーストラリア連邦ヴィクトリア州政府 John Eren スポーツ大臣は、「このプロジェクトは、スポーツとレクリエーションをすべての人々、特に障害のある人たちがより手軽に楽しめるようにする新しい方法を、我々がどのようにして見つけたかを示すもう一つの貴重な例となっています」と語りました。

また YMCA キャンピングの地域開発責任者 Brendan Smith 氏は、「マンユンのロープコースは、基本原則を考え実現するという極めて難しい課題でしたが、同時に非常に達成感がありました」と述べています。

こちら <https://youtu.be/n3WsnCYbdiM> から、「ハイチャレンジロープコース」の実際の様子をご覧ください。

「キャンプ・マンユン」の「ハイチャレンジロープコース」の楽しさを是非ご自身でも体験してみてください。

皆様のオーストラリア連邦ヴィクトリア州へのお越しを楽しみにしております。



「ハイチャレンジロープコース」を楽しむ利用者



## 3月の予定

月	火	水	木	金	土	日
		1	2 14:30～ 研究部会 @IAUD サロン	3 15:00～ 理事会 @NEC 本社ビル	4	5
6	7	8	9 9:30～ 住空間 PJ @IAUD サロン	10 14:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	11	12
13 10:00～ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	14	15 13:00～ 移動空間 PJ 成田空港第3ターミナル見学会 14:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	16 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	17	18	19
20 春分の日	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31 13:30～ 標準化 @IAUD サロン		

### 無断転載禁止

次号は 2017 年 4 月発行予定

特集:「IAUD アワード 2016」受賞紹介③ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:[info@iaud.net](mailto:info@iaud.net)